

自己評価報告書(最終報告)

報告者

生活・健康系コース(保健体
育)／綿引 勝美

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが(平成24年8月28日)、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1. 目標・計画

①授業内容としては、身体の再生技術の進展に伴う、生命倫理上の問題から、体育科教育の基礎原理についての理解を深めたい。
②授業方法としては、調べ学習を中心に、論理的に説明したり、論争を仕組む能力を養う。
③成績評価としては、筆記試験、レポートのプレゼンテーションについての相互評価・自己評価、ディベートにおける発言内容についての相互評価をもとに行う。

2. 点検・評価

①授業内容: 身体の再生技術の進展に伴う生命倫理上の問題から体育科教育の基礎原理の理解を図ってきた。フランスにおける身体の尊厳思想を基礎とした、体育の目標や内容、指導の在り方を問いなおすことの重要性、並びに、そこにおける初等中等段階での教員の倫理観の重要性、を理解させることを狙いとし、成果を得ることができた。
②授業方法: 学修課題を明確にし、自らの身体についての意識の変容、並びに、身体やスポーツ指導に関する社会的な問題についての検索と問題発見の手法をみにつける探求型の授業方法を採用した。またIT環境の積極的な活用によって、課題検索の裾のを広げるとともに、情報の集約や総合のためのリテラシーの習得も狙いとし、成果を得ることができた。
③筆記試験、並びに、授業の初めと終わりの身体の変化を言葉として表現するレポートによる評価を実施した。レポート作成に関わる学生間での協働の学びも組織化することができ、大きな成果を得た。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- スポーツ活動の社会的な広がりの中で、スポーツに関連した事業や産業に関心をもたせるような指導を行う。とりわけ、地域総合型スポーツクラブとのネットワークを構築する。
- ドイツの競技スポーツトレーニング学についての学習の機会を提供する。
- 音楽、国語の教員と共同し、教科を超えた教員養成コア授業の内容構成に関するプロジェクトを推進する。

2. 点検・評価

- 徳島県バドミントン協会でのジュニア競技者の育成指導に関わる連携を深めることができた。
- ドイツトレーニング学勉強会(東京、高松)を4回開催することができた。
- 大学院の広領域コア科目の授業構成について、国語科、音楽科の教員との協働研究(科学研究費)をすすめることができた。教科間の連携に関する視点を深化させることができた。

Ⅱ-2. 研究

1. 目標・計画

- ドイツにおける「Bewegung-turn」という思想的な潮流をひきつづき精査する。
- ドイツの選手選抜制度・トレーニング科学関連資料を収集し解析する。
- スポーツトレーニングに関連するNPOやベンチャー企業との共同研究を推進し、指導者の再教育システムをサポートする。

2. 点検・評価

- 身体論、運動論における大きなパラダイム・シフトについての基礎資料を収集することができた。とりわけ、複雑系と教育学、動的システムの考え方などの視点を得ることができた。
- ドイツのトレーニング学関連資料の分析については、引き続き研究論文の抄訳と問題領域の編成についての分析を進めている。
- プロ野球やプロサッカーの選手やコーチ経験者との交流のための手がかりを構築中である。高度な専門性をもっている指導者の再教育システムの構築にむけた緒をつかむことができた。また神奈川県で開校した子供のスポーツ教育プログラム「スピツェン」の作成に関わることができた。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

- 大学機関別認証評価Wkに参加する。
- 入試委員として、学部入試の改革に取り組む。
- 文部科学省等のプロジェクト予算獲得にむけた取組みを継続する。

2. 点検・評価

- 機関別認証評価Wkに関わった。
- 修士課程教員養成カリキュラム研究開発委員として活動し、二回の学内研究会、一回のシンポジウムを開催し、大学院既設修士課程の成果と、今後の改革のための緒となる、教科内容構成、教科内容学についての方向性を見出す作業に関わることができた。
- 入試委員会の試験班班長として、入試業務の円滑な実施の任にあたった。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- ライブチヒスポーツ科学交流協会を通じた、トレーニング科学の国際的な交流を促進し、我が国のスポーツ指導者養成のサポートを行う。
- 地域総合型スポーツクラブとのネットワークを構築する。
- フィールド研究などをおして、附属学校等での授業サポートを継続する。

2. 点検・評価

- 本年もライブチヒスポーツ科学交流協会主催の、トレーニング科学講座を開催する事業に関わった。
- 徳島県バドミントン協会での、競技者育成事業に関わった。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)